

幸：観光気分でも行けるんじゃないかと思えますけれどね。

所：ちょっと行きましようかという感じで？

幸：そうですね。本当はもっと真剣に取り組んで、向こうでいい勉強をして来てもらえればと思うんですけれどね。

所：ちょっと経験にという感じではなくてやはり得るものをしっかり身につけて帰ってきてもらいたいという感じですか？

多：そうですね。

幸：何回も行っているとマンネリ化してしまう場合もあるでしょうね。でもやっぱり行けば何か得るものはありますよね。イタリアにしてもロシアにしても向こうの人たちは年々強くなって来るから。

所：イギリスではブラックプールで踊られたと伺っております。それもとても思い出深い出来事ですか？

多：楽しかったですね。成績は良くなかったですけど。

所：でもやっぱりブラックプールでと。

多：夢でしたね。ダンスをする人はあそこで一度は踊ってみたいというのは夢でしょうね。

所：「日本では武道館、世界ではブラックプールで」これがダンスをされている方の夢、そしてその2つをかなえられたわけですね。

幸：はい。テレビの番組でもブラックプールに出ていますね。みんな行きたいんでしょうね。

多：ブラックプールは一応エントリーすればだれでも出られるんですよ。

所：そうなんですか？

多：はい。武道館などは出場枠があるので誰でもという訳にはいかないんですが、ブラックプールは誰でも出られるんです。ただ出場しても残っていけるかどうかだけです。

<コーチーとして>

所：さて、昭和57年に現役を引退されて、それから指導者として大変素晴らしい選手をたくさん出していらっしゃいますけれど、指導者として気をつける事、いつもこころ掛けられている事というのはどんな事でしょうか？



幸：そうですね、人それぞれ個性が違うので、その人たちの悪いところを指摘して直すより、良いところを伸ばす指導方法を心掛けています。こういうところで「何で悪いところを直さないのか」と言う彼女と意見が違う場合があるんですよ。僕はその人の持っている良い物を伸ばしてあげた方が良いような気がしています。

所：ご自分たちで踊っていらっしゃるのと、そういう技術を伝えるにはまた違うものが必要でしょうか？

幸：経験がそうさせるからやっぱり自分がやってきたことが最優先するでしょうね。後は感覚的なもの、ということもあるでしょうね。

所：多美子先生は？

多：人によって骨格も違うように踊りも全然違います。

わたしはどちらかと言うと少しスピードがある方が好きですが、幸雄先生はきちっとしないといけません。例えばワルツの家を作ろうとすると、土台をきちっと作らないとワルツの踊りができないんです。わたしはどちらかと言うと家を上の方から格好の良い所から作りたいわけです。その辺りがちょっと幸雄先生と違います。競技選手ですと勝たせないといけませんからね。そんなにきちっとやっていたら時間がなく（競技会に）間に合わないからちょっとかっこ良くしようと（笑）そういう時は時々意見が違うことがありますね。二人の意見を両方合わせてやっていくのが一番いいんでしょうね。

<中部総局長に就任して>

所：この4月より、中部7県からなる中部総局のトップに就任されました。お父様も中部総局長を務められたわけですが、これからの中部総局長としての課題というのはどんな事をお考えでしょうか。

幸：難しいですね。全国的なものと思うんですが、ダンス界というのがバラバラになっている様な気がします。ある時期にダンス界が分かれて、主義主張が違うからでしょうね。今後は今まで3つ4つになっていたのを1つにして、強い日本のダンス界になって頂ければなあ、ということです。すぐにはできないと思いますけれどね。

所：是非とも幸雄先生のお力で

幸：いえいえ。微力ながら進めていくのが務めじゃないかと思えますね。まず一人じゃできないですけどね。

所：ただ、望みは持っていますか？

幸：そうなんです。なって頂きたいという思いは。

所：同じダンスをやっている人にとって、どなたでもまともやっていきたいという思いがあたりなのですね。

幸：はい。三本の矢、ですよ。

所：先生方の益々のご発展とご健康をお祈りいたします。本日はありがとうございました。

幸：ありがとうございました。

多：ありがとうございました。

インタビュアー

所 真理子

・元CBCアナウンサー

・ビジュアルボイスアカデミー講師

